

定期試験問題

授業科目名	法理学特講	2009年度：後期	
		定期試験期間内	
担当教員名	足立英彦	試験日・時間	1月29日(金) 14:45 ~ 16:15

1. 文 P 自身から P を演繹することが妥当であることを説明しなさい。
2. 二つの前提 $Q \rightarrow P$ と Q から, P を演繹することが妥当であることを説明しなさい。
3. 次のパラグラフは演繹として分析できる。タブローの方法を用いて, 結論が前提から演繹できることを説明しなさい。
 「太郎は日本人でかつ英雄であった。日本人はすべて大酒飲みで, 英雄はすべて殺人者であった。それゆえ, 太郎は大酒飲みでかつ殺人者であった。」
 ただし, J = 「日本人である」, H = 「英雄である」, D = 「大酒のみである」, M = 「殺人者である」, t = 太郎とする。
4. 次の式集合は矛盾しているか? タブローで調べよ。
 $\{\exists x(Px \wedge \neg Qx), \forall x(Px \rightarrow \neg Qx)\}$
5. 次のことを同時に信じている人は矛盾しているか。
 「法理学を学んだものだけが卒業する。」「花子は法理学を学ばなかったが卒業した。」
 ただし, J = 「法理学を学ぶ」, G = 「卒業する」, 花子 = h とする。
6. $\Box A \rightarrow A$ は T 恒真か?
7. $\neg(\Diamond B \rightarrow \Diamond(A \wedge B)) \rightarrow \Diamond \neg A$ は T 恒真か?
8. 講義の感想, ご意見, ご要望等を書いてください。どのような内容であれ, 採点には影響しません。

- 上記問 1~7 は, オールウドほか『日常言語の論理学』(産業図書, 1979年) 116頁, 戸田山和久『論理学をつくる』(名古屋大学出版会, 2000年) 129頁・131頁, 菅原道明『論理学的思考』(北樹出版, 1991年) 170-171頁にある問題・例題を一部改変したものである。
- 配点は問 1~7 各 10点, 合計 70点。
- 答案返却は 2月3日(水)以降に研究室(763)にて。

以上